

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

| | |
|---|--|
| (整理番号) 031 | 提案機関名 農業技術センター普及指導部 |
| 要望問題名 トマトの苗質の違いが定植後の生育に与える影響 | |
| 要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 現地のトマト生産現場では、老化苗や徒長苗の定植により、初期生育が悪く、収量、品質へ悪影響を及ぼしている事例が見られる。例えば、徒長苗や水を絞りすぎた苗、定植遅れの老化苗が原因で生育のバランスが崩れ、収量、品質の低下を招いている事例が見られる。また、不良苗を定植し、環境制御しているハウスでは、地上部の生育が促進され、地上部/地下部のバランスがさらに悪くなり、生理障害（水疱症、尻腐れ果等）を助長していると考えられる事例も見られる。野菜の収量・品質を向上させ、安定生産をするためには、健全苗の育成による良好な初期生育を促すことが重要であることを改めて普及させる必要がある。 そこで、健全苗、徒長苗、老化苗等苗質の違い（灌水量、温度管理を変えて管理した苗）が、生育、収量、品質にどの程度影響を及ぼすか、調査していただきたい。 | |
| 解決希望年限 | <input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内 |
| 対応を希望する研究機関名 | <input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター <input type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター |
| 備考 トマトは、現地で栽培が多い‘麗容’、‘桃太郎はるか’、‘TYみそら86’を中心に品種ごとにお問い合わせしたい。 | |

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

| | | | |
|---|---|-------------|--------------|
| 回答機関名 | 農業技術センター | 担当部所 | 生産技術部野菜作物研究課 |
| 対応区分 | <input checked="" type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可 | | |
| 試験研究課題名 (①、②、④の場合) かながわらしい地産地消を推進するための技術開発 2 消費者ニーズに応える高品質・安定生産技術の開発 (1)野菜類の高品質・安定生産技術の開発 | | | |
| 対応の内容等 近年、購入苗の導入が増加しており、購入苗に対応した苗管理が必要であると考えております。苗半作といわれるように定植前の苗管理は非常に重要であり、当課で実施しております環境制御技術や生理障害（水疱症）に関する試験とも関連いたしますので、苗質が定植後の成育に及ぼす影響について調査していきます。 | | | |
| 解決予定年限 | <input type="checkbox"/> ①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内 | | |
| 備考 | | | |